



JAPAN EAST REGION

# 2013-2014 国際・交流事業通信 (第2号) 2013.12.

ワイズメンズクラブ  
国際協会東日本区  
国際・交流事業主任  
石丸由理  
(東京武蔵野多摩クラブ)

今年も残り少なくなりました  
皆さまはワイズライフをエンジョイなさっている事と思います  
だんだん寒い毎日を迎えます。皆さまどうぞお身体大切にお過ごし下さい！

## ○ IBC/DBC強化月間

1月は、IBC/DBCの強化月間です。  
兄弟クラブの交流を深めて、お互いのクラブ発展に結びつけましょう！



TOF (Time of Fast Project Fund)

## ○ タイム オブ ファスト国際プロジェクト基金

TOFは、クラブ例会での食事を抜き、その分を献金し国際協力で認定した発展途上国を対象とする、地域支援プロジェクトに用いるプログラムです。全世界のワイズメン一人一人が協力する、国際的なプログラムでYMCAをはじめとする各地のプロジェクトを支援し地域社会に貢献します。強化月間は、2月です。

《2013年に承認されたプロジェクト案件》

- TOF13-01 ザンビアのカマチピア・コミュニティセンター建設 3万フラン
- TOF13-02 ボリビアの服装教育訓練所設立。13,820フラン
- TOF13-03 チリの指導者と地域の活動支援。26,732フラン
- TOF13-04 スリランカの地域への旅行者増大 14,913フラン
- TOF13-05 チリ・テムコでの英語障壁撤廃 28,631フラン
- TOF13-06 エクアドルの「若者は将来でなく現在を鍛えよう」運動に。28,632フラン
- TOF13-07 エクアドル・サントドミンゴでの貧困撲滅および男女平等機会運動、27,711フラン
- TOF13-08 ケニヤでのコミュニティ・ホール建設 29,361フラン
- TOF13-09 インド・ケララ州のHIV/AIDSとマラリア撲滅運動、24,711フラン
- TOF13-10 インドバンガロールの「デイエナ・セバ」(貧困家庭)の子育て支援 27,606フラン

## ○ 2月15日は各種献金の締め切りになります

BF、TOF、RBMの献金を宜しくお願い致します

BF	Brotherhood Fund	兄弟基金	¥2000/1人
TOF	Time of Fast	断食の時	¥1300/1人
RBM	Roll Back Malaria Partnership	ロールバックマラリア運動	¥800/1人
EF	Endowment Fund	委託基金	自由献金
YES	Y's Extension Support	ワイズエクステンション	自由献金

今年度の国際・交流の事業は、国連との提携事業  
Roll Back Malaria Partnership (ロールバック・マラリア・パートナーシップ) の  
理解とご協力を、今期事業の重点課題としております  
仙台 YMCA でご活躍の加藤雄一さんは、被災地の支援で出かけた先で、蚊に刺された事で  
マラリアにかかった体験を持っていらっしゃいます

## 《マラリア体験》

加藤雄一

1998年7月17日、パプアニューギニア北西部沖で発生したマグニチュード7.1の地震により発生した最大15mの大津波が3度にわたり沿岸部にあるアイタペという町を襲いました。2,200人以上が亡くなり10,000人以上が沿岸部からジャングルへの移住を余儀なくされました。多くの国民がこの津波のために募金をし、パプアニューギニア YMCA も支援活動を被災地で行っておりました。

みやぎ災害救援ボランティアセンターより、県民から寄せられた募金をパプアニューギニア YMCA を通して届けたいので、現地視察に同行して欲しいと要請があり、1999年1月24日から2月2日まで、パプアニューギニア YMCA および被災地アイタペにおける救援活動の調査に伺いました。

アイタペには首都ポートモレスビーから飛行機で向かいました。到着するとすぐに被災地のいくつかの活動拠点を回りましたが、私の服装は半袖にハーフパンツ。まさか夜にジャングルの中で寝ることになるとは思っていなかったので、着替えを宿舎においてきていました。被災地への移動は車でしたが、私が乗せられたのは荷台(所長は車内)。全部で3~4時間ほどの間に私の体は熱帯の太陽に照らされて真っ赤なやけど状態になっていました。

宿泊したところは、高床式の簡易な倉庫のようなところに1枚布団を引いただけのものでした。蚊帳がつるしてありましたが、床の下から蚊が入ってくる状態で、蚊帳が役割を果たしません。刺されてはならないと蚊帳を体に巻いて寝ようと思いました。ところが日焼けのため蚊帳の生地が擦れて皮膚を刺激するため、全く寝ることができません。仕方なくジャングルの中で皮膚を出したまま過ごしてしまうことになりました。

発症したのは帰国後9日目。体の調子がなんとなく悪くなってきました。そのころインフルエンザが流行っており、風邪を引いたかと思っておりましたが、2月11日は、仙台 YMCA の全体職員会議だったのでなんとか我慢していました。12日(金)出勤して間もなくどうしようもなくなり、その日はラジオの出演依頼がありましたが断り、近所の病院へ行きました。診断はインフルエンザ。解熱剤を打ってもらって、当時住んでいた石巻の寒い自宅で布団に飛び込みました。ところが寒くて寒くて布団の中で転げまわり、遂にはあまりの寒さにお風呂を沸かし入りました。体が温まると今度は熱がぐんと上がり、また、寒気がやってくる。この繰り返しでした。夕方になり、女川町立病院に勤めている妻が帰宅。病院に連れて行って欲しいと言って、女川町立病院にかかりました。診断は、またもインフルエンザ。再度パプアニューギニアに行ったことを話し血液検査を依頼すると、ようやくマラリアであることが分かりました。

後に慈恵医大病院の大友弘士先生に伺いましたが、金曜日の夜に女川から連絡があり週明けにでも来てくださいと言われましたが、「ふざけるな!」と言って駆けつけたんですよとおっしゃっていました。13日(土)、まだ認可を受けていないという薬を処方するのでサインをしてほしいとサインをし服用。その後徐々に良くなっていきましたが、体重は8キロ減。仕事に復帰するまで2週間ほど要していました。色々な条件が重なり、マラリアになりましたが、こんなお話が誰かのお役にたてる日が来るとは思いませんでした。生かされて感謝です。

加藤雄一：1962年 仙台市生まれ 1986年 仙台 YMCA 入職

1994年11月から6か月間タンザニア YMCA ルワンダ難民キャンプ支援活動参加

1999年4月～ 仙台 YMCA 国際ホテル専門学校担当。現在、校長

2013年4月～ 仙台ワイズメンズクラブ担当職員



RBM (ROLL BACK MALARIA PARTNERSHIP/ロールバック マラリア パートナーシップ)  
メンバー1人当たりの献金は800円になります。クラブ例会、役員会等でマラリアの影響を考えていただき、各クラブで未来の子供達の為に協賛できるかを、どうぞご検討ください。

Y's MEN INTERNATIONAL のHP のトップ画面左 Programmes の中の  
ROLL BACK MALARIA (RBM) をクリックし、左上の What is RBM? の Read more を  
クリックして頂くと、日本語の入っているプログラムの紹介が見られます